

五感の翼  
を広げよう

iichiko  
総合文化センター  
大分県立美術館

抽選で/  
読者プレゼント!!  
詳しくは裏面をチェック!

総合情報誌

2023  
AUTUMN  
102  
Take Free

湯

THERMAE  
ANCIENT  
ROME, JAPAN,  
AND THE JOY OF  
BATHING

# テルマエ展

お風呂でつながる古代ローマと日本



《美しらのウィナス》  
1世紀  
ナポリ国立考古学博物館蔵  
Photo© Luciano and Marco Pedicini



《ゴールドバンド装飾瓶》1世紀  
平山郁夫シルクロード美術館蔵



三浦宏《湯屋模型》  
1980年代 個人蔵



《アポロとニンフへの奉納彫形》2世紀  
ナポリ国立考古学博物館蔵  
Photo© Luciano and Marco Pedicini



《銅製把手付ガラス壺》3-4世紀  
MIHO MUSEUM蔵

漫画『テルマエ・ロマエ』で  
おなじみのルシウスが  
お風呂の世界へ  
ご案内!



©ヤマザキマリ

2023.11.25(土) — 2024.1.21(日)

CONTENTS こどもたちへ -未来へつなぐ、こころ育む-

iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ / OPAM美術部

湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯
湯	 <p>《ライオン頭部形の吐水口》1世紀 ナポリ国立考古学博物館蔵 Photo © Luciano and Marco Pediconi</p> <p>《ストリギリス(肌かき器)》前3-前1世紀 ボーラ文化研究所蔵</p> <h1>テルマエ展</h1> <h2>お風呂でつながる古代ローマと日本</h2> <p>2023.11.25(土) - 2024.1.21(日) 大分県立美術館 1階 展示室A</p> <p>人類史上に輝く繁栄を誇った古代ローマ。なかでも日本人が深い関心をよせるものの一つがテルマエ(公共浴場)であり、ヤマザキマリ氏による漫画『テルマエ・ロマエ』はテルマエへの親近感をより一層高めました。本展では、同漫画の主人公ルシウスが案内人となり、古代ローマのテルマエとともに、日本の入浴文化も紹介します。ルシウスが浴場をととして日本と古代ローマを往復したように、それぞれの入浴文化を体感することのできる機会となるでしょう。</p>  <p>《ヘタイラ(遊女)のいる浴室》1世紀 ナポリ国立考古学博物館蔵 Photo © Luciano and Marco Pediconi</p> <h3>ローマも日本も I LOVE 湯!</h3> <p><b>関連イベント</b></p> <p><b>ヤマザキマリ トークショー</b>      講師：ヤマザキマリ(漫画家・文筆家・画家)      2023年11月25日(土) 14:00-15:30      会場：大分県立美術館 1階 アトリウム      参加費：無料(要展覧会観覧券) 定員：150名      ※申込は締め切りました。</p> <p><b>講演会「近代別府温泉の発展とその背景」</b>      講師：秦広之(別府市教育委員会社会教育課主査)      2023年12月9日(土) 14:00-15:30      会場：大分県立美術館 2階 研修室      参加費：無料(要展覧会観覧券) 定員：80名</p> <p><b>講演会「古代ローマとテルマエ・大分」</b>      講師：井上洋一(奈良国立博物館館長)      2023年11月26日(日) 14:00-15:30      会場：大分県立美術館 2階 研修室      参加費：無料(要展覧会観覧券) 定員：80名</p> <p><b>講演会「テルマエと美術」</b>      講師：芳賀京子(東京大学大学院教授)      2023年12月2日(土) 14:00-15:30      会場：大分県立美術館 2階 研修室      参加費：無料(要展覧会観覧券) 定員：80名</p> <p><b>申し込み</b>      当館HPの申込みフォームからお申込みください。      定員に達し次第、締切とさせていただきます。</p> <p><b>ギャラリートーク</b> ※予約不要・要展覧会観覧券 2024年1月6日(土)、1月13日(土)14:00~15:00</p> <p><b>テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本</b>      休展日：12月19日(火) 開館時間：10:00~19:00、金・土曜~20:00(入場は閉館の30分前まで)      観覧料：一般1400(1200)円・大学・高校生1000(800)円※( )内は前売りおよび有料入場20名以上の団体料金※中学生以下は無料※大分県芸術文化友の会 びびKOTOBUKI無料(同伴者1名半額)、TAKA SAGO無料、UME団体料金。※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方とその付添者(1名)は無料。※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください。      お問い合わせ：大分県立美術館 Tel.097-533-4500</p>										湯
湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯	湯

理事長あいさつ



公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団

理事長  
**広瀬 勝貞**

この度、大分県芸術文化スポーツ振興財団の理事長に就任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

大分県は豊かな自然と古い歴史文化を背景にしながら、宇佐・国東を中心とする神仏習合、大友宗麟の時代の南蛮文化など、異文化を積極的に受け入れる進取の気風に富んだ社会をかたちづくってきました。現在もこのような歴史風土は大分の人びとに受け継がれ、脈々と息づいています。

iichiko総合文化センターと県立美術館のある「芸術文化ゾーン」は北に国東半島、南に佐賀関に囲まれた別府湾に面し、すぐに高崎山、由布岳、鶴見岳を仰ぎ、傍らを大分川、大野川の二つの河川が流れ、遥かに九重連山を眺む絶好のロケーションにあります。

当財団は「豊の国」を象徴するこの芸術文化ゾーンを「五感の翼」と名付け、美術と音楽など幅広い分野の芸術文化の融合と、新たな価値の創造を目指す活動を展開しています。

令和5年度は、新たな指定管理期間が始まり、また、第3期中期経営戦略計画がスタートします。総合文化

センター及び美術館の管理運営について、これまでの経験を活かし、今後のサービス向上や施設の利活用の促進に努めるとともに、中期経営戦略計画に盛り込んだ具体的な取組みを着実に実行し、芸術文化の振興はもとより、芸術文化の創造性を活かして教育、産業の振興、地域づくりの推進に貢献することを目指します。

また、本年度は大ホールと中ホールの改修工事を行います。安心・安全の確保に加え、女性用トイレの拡充や車いす席の増設、舞台装置のデジタル化、座席の修繕、カーペットの張り替えなどを行います。県民の皆様がより利用しやすい施設として生まれ変わりますのでご期待ください。

私たち大分県芸術文化スポーツ振興財団は、多くの県民の皆様がiichiko総合文化センターと県立美術館に足を運んでいただき、音楽や演劇などの公演や美術作品などを鑑賞して楽しんでいただき、感性や創造性を磨き、五感の翼を広げていただきたいと思います。

iichiko総合文化センターと県立美術館が多くの県民の皆さんに親しまれ、心に残る施設として愛され、県民の「心のふるさと」となれるよう、ともに力を合わせて運営に当たってまいります。



# テルマエ展

お風呂でつながる古代ローマと日本



はがきょうこ  
芳賀京子  
東京大学大学院教授

## 日本のお風呂とすごく似ていてやっぱり違う 古代ローマの「テルマエ」の魅力とは？

2023年11月より、企画展「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」が開催される。そこで、本展の監修者として展示作品のピックアップなどを担当した東京大学大学院教授・芳賀京子先生に、古代ローマの「テルマエ（風呂）文化」についてお話をうかがった。



三浦宏「湯屋模型」  
1980年代 個人蔵

——今回の展示会のテーマである「テルマエ」とは、なんでしょうか？

「テルマエ」とは、古代ローマ帝国で発展した「大規模な公共浴場」のことです。漫画「テルマエ・ロマエ」で日本でも広く知れ渡りましたが、ギリシア語で「熱い」を意味する「テルモス」が語源とされます。古代ローマで最初につくられたテルマエは紀元前1世紀末にアクリッパ（※1）がつくったもので、これ以降に「テルマエII 公共浴場」を意味する言葉として定着したようです。

今回展示品の借用のため現地イタリアの研究者に「テルマエ展」の企画を説明したら、「随分マニアックな企画だね」と驚かれました。というのも、イタリアを含めて日本ほど風呂文化に馴染みがある国はないからです。実際テルマエの

——テルマエが生まれる以前から風呂文化はあったのでしょうか？

紀元前1500年頃のミノス（クレタ）文明の遺跡からバスタブが発掘されており、風呂文化はテルマエが生まれるずっと前からあったとされます。テルマエに大きな影響を与えたのは古代ギリシアの大浴場。運動競技場に併設されていて、私たちが運動した後にシャワーを浴びると同じ要領で、競技後に若い男性が一齐に水浴びをするための施設があったことが知られています。これは水

遺跡では、他の国の観光客が素通りする中、日本人観光客だけが目を輝かせて観察している。つまり「テルマエ展」は、お風呂が大好きな日本人だからこそ開催できた、特殊な展示会なんです！

風呂でした。とはいえ、当時から温泉地もありましたし、老人や病人は温水に浸かっていたようです。

——テルマエはそれまでの風呂文化と何が違うのでしょうか？

古代ローマのテルマエの特徴は、ひじょうに大規模な公共施設だったということでしょう。大きな浴場をつくるためには、大量の水と燃料、そして湯を沸かす奴隷が必要です。ローマは水道を完備



し、国力もあつたため各地から燃料奴隷を調達できました。ローマ帝国の滅亡後、テルマエ文化は衰退しますが、これは大規模な施設を維持できるだけの力を持った国が生まれなかったことが一因

です。よく、「裸の付き合いを忌避するキリスト教の拡大で、テルマエは廃れた」と説明されますが、実際はキリスト教拡大後も新たなテルマエがつくられており、ランニングコストがかからない温泉地では風呂文化が残されました。また、有名な「カラカラ浴場」(※2)

を始め、テルマエは皇帝の主導でつくられ、ローマ市民は無料または格安で入浴できたのも特徴です。古代ローマといえば「パンとサーカス」という言葉聞いたことはありませんか。これはローマ皇帝が庶民に「パン（食事）」と「サーカス（娯楽）」を無償で提供し、帝国を治めたことを意味しますが、テルマエはまさにそうした娯楽の一つでしょう。事実、テルマエには、プールやマッサージ、サウナ、くつろげるスペースを併設するものもありました。現代日本のスーパー銭湯にそっくりですね。

また、テルマエは社交場としての機能も持っていました。午前中働いた労働者が、ひとつぶる浴びに午後テルマエに集まるといったルーティーンがあつたとか。浴室内では当然裸の付き合いなので、身分を超えて談笑したり…なんてこともあつたかもしれません。一方で、上層階級の中には、身分関係なく同じ湯に浸かることに抵抗があつた人もいたようで、「テルマエは不潔だ」と語る文筆家の記録も残っています。

——「テルマエ展」では多くの彫刻作品が展示されますが、テルマエと彫刻にはどんな関わりがあるのでしょうか？

テルマエにはさまざまな彫刻が飾られていました。これらの像はひとつひとつ理由があつて置かれていました。たとえば沐浴をするヴェイナスの像。ギリシア神話



《アポロとニフへの奉納彫刻》2世紀  
ナポリ国立考古学博物館蔵  
Photo © Luciano and Marco Pedicini

のヴェイナスは、海から生まれた神で、水の精霊ニフを連れ立っている。水と関連する神だからお風呂に設置したのでしょう。同じくテルマエによく見られるアポロやアスクレピオスは治療の神。お風呂が健康の秘訣であることを、アポロ像を通じて表現したのかもありません。また、テルマエにはギリシアのギムナシウム（運動施設）の影響がみられます。そのためアスリートの像もよく飾られました。

このように、テルマエに設置された彫刻は、教養がある人が見たらなぜその像が飾られたのかという「読み解き」を楽しめるものであり、古代ローマ人の美術を楽しむ

むことへの積極性が感じ取れます。もっとも庶民からしたら、「お風呂だから裸の人の像がいっぱいあるんだなあ」ぐらいの意識だったかもしれません（笑）。

——最後に、先生のイチオシの展示を教えてください。

今回「カラカラ浴場」をつくった皇帝カラカラの胸像を展示します。彫刻として美しい作品ですが、この像には面白い逸話があるんです。というのもカラカラ浴場の発掘時「カラカラの全身像が出たけど、壊れていたので胸像に作り直した」という記録が残っており、それがこの像ではないかといわれているんです。カラカラは漫画「テルマエ・ロマエ」のヒットの前から日本にローマの風呂文化を広めた人物ですので、彼の像を展示できたのは感慨深いですね。

「テルマエ展」は他にも、テルマエの水盤（洗い場）の再現展示を始め、テルマエの魅力がより伝わるよう工夫をこらしました。また、ローマだけではなく、浮世絵など日本の風呂文化がわかる作品も展示しています。

大分は温泉が身近にあり、温泉文化に普段から触れることが多いかと思えます。お風呂への愛をもった大分の皆様に、日本の風呂文化とテルマエ文化の「すごく似ているポイント」や「違うポイント」を探してもらい、楽しんでいただけたら嬉しいですね。



《カラカラ帝胸像》  
212~217年  
ナポリ国立考古学博物館蔵  
Photo © Luciano and Marco Pedicini

※1 アグリッパ：初代ローマ皇帝アウグストゥスの重臣。

※2 カラカラ浴場：皇帝カラカラ（188～217年）がつくった公共浴場。敷地面積は約11万平方メートルに及び、周囲には運動場や庭園、図書館などが併設された。

夏の特別ワークショップ  
～ぜったい楽しい夏休み!2023

毎年大人気の「夏の特別ワークショップ」。今年は、3つのワークショップが開催され、子どもから大人まで一生懸命に取り組んでいました。今回は「全力で作る・造る・創る3日間～海賊船と人魚たち」にお邪魔してきました。

全力で作る・造る・創る3日間  
海賊船と人魚たち

2023年8月17日(木)・18日(金)・19日(土)

1日目 イメージと色塗り

海賊船や人魚、海賊について想像を膨らませながら、自分たちの作りたいものをまずは絵で表現。カラフルな人魚やネコの海賊、宝箱など、自由なアイデアで紙に描いていきます。午後は実際に船や、海に浮かぶ島を作るために、段ボールや紙に、茶色や緑の絵の具をローラーや筆でペインティング。色の交わりを楽しみながら色を重ねていきました。



3日目 仕上げ・お披露目



最終日、午前中は海賊船の最終仕上げ。柵や宝石、大砲、大きな旗、舵など急ピッチで作業を進めていきます。船が形になると大盛り上がり。ブルーシートの海に島々が浮かぶ中、みんなの力で出来上がった海賊船が存在感を放ちます。最後は子どもたち自身が人魚や海賊の衣装に身を包み、メイクをして、保護者の方々に3日間の成果を披露しました。想像以上に大きな作品が完成して保護者の方もびっくり。島に腰掛ける人魚や海賊船の舵を取る海賊など、最初にイメージしていたものが形となり、子どもたちは大喜びでした。

子どもたちへ

～未来へつなぐ、こころ育む～

2日目 衣装・船づくり

人魚チームと海賊チームに分かれ、思い思いの衣装を制作していきました。そしていよいよ船作り!全体のバランスを見ながら船を組み立てていきます。船の窓や帆を作ったり、「こっちの方がいいんじゃない?」「この順番で紐を結ぼう」などお互いに相談しながら制作。人魚のアクセサリやウィッグ、海賊の帽子や剣、眼帯など、自分のイメージした海賊や人魚を表現するため、細かいところまで工夫していました。



IV 2023  
コレクション展IV  
暮らしと美術  
～日常のひとつま～

会期 11/16(木)～2024年1/28(日)

前期…11/16(木)～12/19(火)  
後期…12/21(木)～2024年1/28(日)  
休展日 12/20(水)は展示替えのため休展

会場 大分県立美術館 3階 コレクション展示室

暮らしに関わる作品は、古くから現代に至るまで数多く作られてきました。その中には、日々の暮らしに潜む美をとらえた絵画から生活空間を飾る屏風、四季折々の衣・食・住を彩る工芸品まで様々な形式があります。

本展では、同時開催の「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」にあわせて、日常の暮らしの様子を題材とする作品を展示します。

日本画家・高山辰雄は、入浴や食事の場面など、日々の何気ない暮らしを題材とした作品を制作しました。日本画家・上村松園の大正期を代表する屏風には、華やかな着姿の女性たちがあでやかに写し取られています。工芸の分野では、重要無形文化財に指定された小鹿田焼の素朴な形と落ち着いた色合いが魅力的です。いずれも毎日の生活を潤し、心を寄せて楽しむことができる作品です。

新年には、新しい年にちなんだ美術作品もあわせて展示します。どうぞお楽しみください。

みどころ1

上村松園の名作

江戸時代の町人の暮らしを題材にした作品で、鏡に月食を映して見物する女性たちを描いています。右隻の女性は、大正時代に美人とうたわれた「大正三美人」のひとりである九条武子がモデルです。



上村松園《月蝕の宵》1916年(片岡辰市コレクション)

みどころ3

いつか見たもの

どこかで見たような家、どこかで会ったような人、どこかで経験したようなこと。本展では、たくさんの「日常のひとつま」に潜む美をご紹介します。



首藤雨邨《港町風景》1937年

この他ミレー、ターナーなどの作品が並びます。ぜひ「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」と併せてご覧ください。

みどころ2

ほのぼのする情景

平柳田中の《無矣無矣》や佐藤哲の《クインとジュエル》には、子どもが無邪気に遊ぶ様子が描かれています。明るい笑顔や熱中する姿に気持ちが和みます。



平柳田中《無矣無矣》1907年

佐藤哲《クインとジュエル》2012年

開催時間: 10:00～19:00、金・土曜～20:00(入場は閉館の30分前まで)

観覧料: 一般300(250)円、大学・高校生200(150)円 ※ ( )内は有料入場20名以上の団体料金 ※中学生以下は無料 ※大分県芸術文化友の会 びびりKOTOBUKI無料、TAKASAGO無料、UME団体料金 ※高校生は土曜日に観覧する場合は無料 ※県内の小学・中学・高校生(これらに準ずる者を含む)とその引率者が教育課程に基づく教育活動として観覧する場合は無料 ※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方とその付添者(1名)は無料 ※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください※開催中の企画展半券提示で1枚につき1回無料  
お問合せ: 大分県立美術館 Tel.097-533-4500

ギャラリーツアー

のえとえの  
近代洋画の楽しみ方  
2023年8月25日(金)



望遠鏡のようにのぞいてみて



近づいてみると細部がみえる



日傘の女性の正体は?

企画展「住友コレクション名品選 フランスと日本近代洋画」展担当学芸員「木藤野絵(のえ)」と教育普及エディケーター「榎本寿紀(えの)」のダブルギャラリートーク。「絵はどこから見るのがベストポジションなの?」。作品に近寄り細部まで見たり、離れて全体の雰囲気を掴んだり、様々なポジションから絵をじっくり鑑賞していきます。手を丸めて望遠鏡をのぞくように見てみると色が鮮やかに見えることを発見! 初期のモネの作品《モンソー公園》の鑑賞では、日傘を差して歩いている女性がモネのパトロンだったエルネスト・オシュデの妻だという解説を聞き、みんな興味津々な様子でした。参加者と対話をしつつ、出展作家のストーリーや作品の魅力を語りながら展覧会を巡ります。終わるころにはみんな鑑賞のプロになっていました。

Artist



リアンデュオ  
Lien duo  
うえむら りせ ながおか まな  
上村梨世さん 永岡真奈さん  
パーカッション

普段は福岡県を中心に演奏活動を行っている2人。「子ども向けの演奏会の時は、1回のプログラムの中にどれだけいろんな種類の打楽器を詰め込めるかがポイントなんです!」と、今回のコンサートに向けての意気込みを楽しそうに話してくれました。生演奏を体験するのが初めての子も多いであろうこの日、フランス語で“縁”を意味する“Lien” duoの名の通り、園児たちと音楽を繋ぐ架け橋になりました。

センターでは、子どもたちに音楽家による演奏や舞台公演の鑑賞機会を提供する取り組みを、企業からの支援などにより、学校や地域と連携して行っています。その活動のひとつ、アウトリーチプログラムの「おでかけクラシックコンサート」をご紹介します。

ろんな楽器を奪い合うようなコミカルな動きで笑いを誘います。演奏後には楽器1つ1つを子どもたちの目線に合わせて解説。1曲の中で楽器を持ち替えたり、足も用いてアンクルベルを鳴らしたり、1人で何役もこなす2人には感嘆のまなざしが…。5曲目の参加型プログラム「トレパック」では、子どもたちの体が打楽器に変身! ロシア民族舞踊風の晴れやかな音楽に合わせてボディパーカッションを練習。頭の上で手を叩いたりお尻を太鼓にしてみたり、スピードアップしてもみんなとても上手に演奏できました。

最後はマリンバのために作曲された「小さな祈り」。木が生み出す温もりのある音色が、空間を包み込むように響きます。コンサートの後には、子どもたちから奏者の2人へ感謝のプレゼント。たくさん登場した楽器の名前もしっかり覚えていたり、目で、耳で、体で楽しんだひとときは、同時に深い学びの場となったようです。

アウトリーチプログラム

「おでかけクラシックコンサート」

あいにくの雨模様にも関わらず、ワクワクした表情で公民館にやってきたのは、4~5歳の園児たち。拍手の中、軽快なメロディーとともに入場してきたのは、『Lien duo』の2人です。マリンバをメインに、手持ちで演奏できるマーチンググロックンなどのさまざまな楽器を駆使して、子どもたちが飽きずに楽しめる“動き”を多く取り入れた演奏会が始まりました。

1曲目は運動会でも定番の「道化師のギャロップ」。素早く動く手から繰り出す疾走感溢れる演奏に、早くも子どもたちはくぎ付けです。2,3曲目では、ウッドブロックやヴィブラスラップ、オーシャンドラムなど、10種類以上の打楽器が登場! 曲中、い



8月31日(木)  
よいこの森こども園  
at角子原公民館



iichiko総合文化センター

ブラッシュアップ研修

「おでかけクラシックコンサート」の登録アーティストを対象に計4日間の研修を行いました。アウトリーチの現状などの講義や、聴く方を想定しプログラムを組み立てるワークショップを通し、プログラムの見直しや新しい手法に挑戦する貴重な機会となりました。

講師



児玉真さん  
一般財団法人 地域創造  
プロデューサー



花田和加子さん  
ヴァイオリン奏者  
一般社団法人アンサンブル  
ノマド理事兼マネージャー



塚越慎子さん  
マリンバ奏者



9月5日(火)・6日(水)

はじめに児玉真さんよりコロナ禍を経てこれからどう活動していくべきか、お話を伺いました。次は花田和加子さん。「今、アーティストに何が求められているのか」をテーマに、音楽をどう社会に役立てていくべきか、日頃から情報収集を行い、常に新しいものを取り入れることの必要性についても伺うことができました。最後は塚越慎子さん。活動の中で生まれた悩みや共有したい事を発表し、それに答える形で始まった講義では、経験豊富な塚越さんのアドバイスに、熱心に聞き入る受講者たち。2日目は支援学校、公民館などの聴く方々を想定し、マーケティングシートを用いたプログラム作りと発表。“マーケティング”という新しい視点から考えることで、さまざまな気づきを得ることができました。

10月5日(木)・6(金)

研修後半では、講師、参加アーティスト、関係者の前でランスルー(通し稽古)を行います。新しい手法を取り入れたりと、各々が前半の講義を基に組み立てた新プログラムを披露。最後は見ている全員のアドバイスを聞いて、振り返りを行いました。研修を通して磨いた経験を、今度は学校や施設など、みなさんの「日常」で披露します。どんな活躍を見せてくれるかみなさんお楽しみに!





▲とよみ園「とよみ園版 ゴッホ ひまわり」



▲山野将志「オーストラリアの島」



▲武井のぶみ「無題」

## SPECIAL EXHIBITION

11.8(水) - 18(土)

おおいた障がい者芸術文化支援センター企画展

### vol.5 「扉をあける」

おおいた  
障がい者  
芸術文化  
支援センター

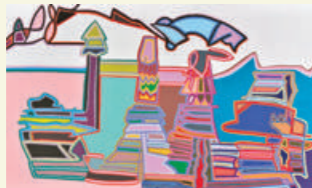
県内外において魅力的な芸術文化活動に取り組む個人や施設を紹介する展覧会。今回のテーマ「扉をあける」には、今、自分が立っている場所から次のフェーズへのアクション(行動)の意味を含めています。本展では大分の作品に加え、障がいのある人の「自分らしい生き方」のために50年以上にわたり活動が続けてきた、「たんぼぼの家」(奈良)の作品とその取り組みもご紹介いたします。

センター開設から4年が経ち、アートによって「可能性の扉」をあけてきた、障がいのある人や福祉施設にたくさん出会うことができました。その様々なスタイルの表現をぜひご覧ください。

「たんぼぼの家」(奈良)の一部の作品



▲澤井玲衣子「ピアニスト」



▲山野将志「オーストラリアの島」



▲小松和子「いのちの炎」

会期: 11/8(水) ~ 18(土)  
時間: 10:00~19:00、金・土曜~20:00  
(入場は閉館の30分前まで)

会場: 大分県立美術館 1階 展示室A  
お問合せ: おおいた障がい者芸術文化支援センター  
Tel. 097-533-4505 (平日9:00~17:00)

企画展詳細やその他  
関連イベントはこちら



## gallery MAPO

ギャラリー マポ

大分県立美術館 2階にて開催中

つくりたいから、つくる。描きたいものを、描く。  
『gallery MAPO』は、自らの思いを自由に表現した作品を紹介するコーナーです。こうした表現は「アールブリュット(生の芸術)」や「アウトサイダーアート」などと呼ばれています。「MAPO」とは「magic pocket」……「魔法のポケット」という意味を含んでいます。小さなポケットから魔法のように生み出される不思議な作品たちをイメージしています。大分県内で活躍するアーティストの「生」の表現を、ゆっくりとお楽しみください。

## Pickup 関連イベント

### よるのとびらをあける ~オリジナル影絵パフォーマンス

日時: 11/12(日) 18:00~  
会場: 大分県立美術館  
1階 アトリウム  
申込: 不要



「たんぼぼの家」をゲストに、公募で集った参加者と「影」をテーマに影絵パフォーマンスを実施。インドネシアの伝統的な影絵芝居「ワヤン・クリツ」などをヒントに、民族楽器・ガムランも使いながらオリジナル芝居を創作。普段は見えないくらしの風景をお届けします。

【大分県公立文化施設協議会加盟館が主催する舞台芸術公演情報】

## Oita Hall Navi

おおいたホールナビ

### J:COM ホルトホール大分開館10周年記念 舞踊詩 雨夜の星

11/26(日)  
【開演】14:00 【終演】15:30(予定)

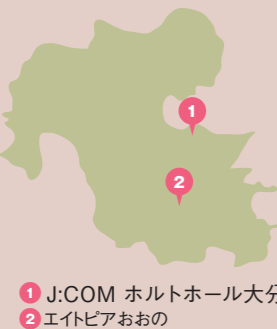
【料】2,000円(全席自由)  
【出】後藤智江モダンダンススタジオ、大分県日本舞踊連盟、ゆりかごバレエスタジオ、佐藤朱音バレエ研究所、シオナーズ、TAP DANCE STUDIO ConneCT、津久見櫻の実少年少女合唱団、宇野健太(チェロ)

【所】J:COM ホルトホール大分 大ホール  
【問】J:COM ホルトホール大分総合事務室  
☎097-576-8877

### 第19回豊後大野市芸術祭

2024年1/8(月・祝)~14(日)  
【開始】10:00

【料】無料  
【出】豊後大野市各文化連盟協議会所属団体  
【所】エイトピアおおの 大ホール ほか  
【問】エイトピアおおの  
☎0974-22-8000



1 J:COM ホルトホール大分  
2 エイトピアおおの

※公演内容が変更となる場合があります。詳しくは各館にお問合せください。



団員  
インタビュー

iichiko Grand Theater

# JUNIOR ORCHESTRA

iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ

## Q. ミュージックキャンプではどんなことをしましたか?

**高祖** 各県の人々とパート練習をしたり、最終日には熊本県立劇場の舞台で合奏をしました。大分は小学生が多いですが、他県は年齢が高い子も多く、貴重な経験が出来ました。

**今山** 3日間一緒に過ごすなかで、これまであまり話したことのなかった人とも仲良くなりました。

**下元** それに音楽だけでなくプライベートのこともたくさん話せて仲が深まりました!

## Q. 他県の団員との交流はどうでしたか?

**小松** 大人数で演奏する中で、自分をアピールするだけではだめだと気付かされました。私はインスペクターだし、大分の代表としても頑張らなきゃと気を張っていたのですが、そうではなく、周りの音を聴きながら演奏する大切さを学びました。芸術監督の川瀬先生がいつも仰っている「思いやりをもつ」意味を改めて感じました。

## Q. この経験を次の演奏会にどう活かしていきたいですか?

**高祖** 熊本で学んだ以上のことを出さないといいものは作れないので、練習を録音して客観的に聴き、自分の音色を知って練習に臨みたいですね。大分の団員の仲も深まったので、他県に負けまいと大きく成長できたら嬉しいです。

**下元** このキャンプをきっかけに、多くの人と仲良くなりました。これからも積極的にコミュニケーションをとって、息の合った演奏をしたいです。

**今山** キャンプを経て、今まで以上に演奏する楽しさを感じました。この「楽しい」という気持ちを忘れずに、定期演奏会を迎えたいと思います。

**小松** 記念すべき第15回の演奏会では、いつもの会場と違う福岡開催です。たくさんの方に聴いていただきたいし、このキャンプで仲良くなったみんなとも会場でもまた会えたら嬉しいです!

団員にとって初めてのミュージックキャンプが熊本県立劇場で行われました。福岡・佐世保・熊本・大分の4団体が集まり、人数は100人以上! キャンプを終えたばかりのメンバーに感想を聞きました!

♪ DATA

9/16~18

北部九州  
ジュニアオーケストラ  
ミュージックキャンプ



今山 莉子さん  
ヴァイオリン / 小6

下元 瑛愛さん  
ヴァイオリン / 中2

小松 美優さん  
トランペット / 高2

高祖 のぞみさん  
ヴァイオリン / 高3

## ジュニアオケ information

### 第15回定期演奏会

日時: 2024年3月24日(日) 16:00開演  
会場: 福岡シンフォニーホール(アクロス福岡)  
指揮: 下野竜也



## 想定デッサン

9/10(日)

前半は想定デッサン。目の前にモチーフが用意される静物デッサンと違い、想定デッサンは自ら題材を選び、どう表現するかを想像しながら描きます。光や陰影などを意識しながら描き、立体感を表現します。後半はクロッキー(速写)に挑戦。短時間で描くため、モチーフの特徴を素早く捉え、シンプルな線で描かなくては間に合いません。繰り返し練習していくと、観察力や表現力、描画スキル向上にも繋がるそうです。

## クロッキー



9/24(日)

## 色遊び

今回は色遊び。絵の具や色鉛筆、クレヨン等を使い、さまざまな技法に挑戦します。デコボコとしたものの上に紙をのせ、その上から鉛筆等でこすって模様を写し取る「フロッタージュ」、下塗りの画用紙を黒いクレヨン等で塗りつぶし、削ると下地の色が現れる「スクラッチ」、筆に絵の具を付けて垂らす「ドリップング」など、無限にある色の表現方法を楽しみながら実践。塩やラップフィルム、のりを使ってわざと色ムラを出す手法など初めて知ることも多く、美術部メンバーにとって大きな収穫になりました。



# OPAM美術部

OPAM美術部、今年度のテーマは【ペインティング】。絵を描くには、クロッキー(速写)、スケッチ(写生)、ドローイング(習作)や、モノを視るトレーニングのデッサン、そして作品制作としてのペインティングがあります。今年度は様々な描画技法を体験します。

8/20(日)

この日は鉛筆デッサン。透明な瓶を、薄い10Hから濃い10Bまで、いろんな鉛筆で描いていきます。ガラスの透明感と陰影を濃淡で描き分け、硬さの異なる鉛筆を使い分けることで、豊かな色調の鉛筆画を描くことができます。みんな目の前の瓶をじっくり観察し、鉛筆を立てたり寝かせたり、線を重ねたりしながら、一生懸命に描き上げました。

## 鉛筆デッサン



ギャラリートークを



友の会

## びびメンバーが体験!

「友の会びび」とは大分県立美術館(OPAM)とiichiko総合文化センターを中心に、大分県の芸術・文化を多くの皆さんに楽しんでもらうメンバーシップです。

REPORT

今回は

びびコレクション展オープニングレクチャー  
「わたしが主役! OPAM秋の名品展」

▶ 3階コレクション展示室

展覧会初日、びび会員向けにギャラリートークが行われました。担当学芸員が「画題からわかる作品の主役」に注目しながら、花卉画(かきず)や鳥獣画などをじっくり解説。作家や作品、制作の時代背景、当時の技術など、普通に展示を見ているだけでは気が付かなかった作品の奥深さを教わり、みなさん興味津々。

「何度か観ている絵画だけど、今回新たな気付きがあった」「面白かったのでまた参加してみたい」などお楽しみいただけたようでした。

レポートのような会員限定プログラムのほか、展覧会の無料鑑賞・割引など特典いっぱい! 詳細はコチラ▶

作品一つひとつの  
ストーリーをご紹介します学芸員  
柴崎香那さん

どうしてこのような展示構成になったのかなど、ギャラリートークはいろんな発見ができると思います。気軽に参加してくださいね。



- 特典内容はメンバーステージによって異なります。
- 最新情報がメルマガで届く、MEJIRO会員(無料)もあります。

お問合せ

(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団 大分県芸術文化友の会びび

tel.097-533-4025(平日 9:00~17:00) fax.097-533-4050 E-mail. bivi@opam.jp

抽選で/  
読者プレゼント!!

1 MOKUタロル  
(フェイスタロル) 2名様  
※カラーは選択できません

2 テルマエ・ロマエセット  
(クリアファイル/ラーメン/カレー) 1名様

3 招待券  
(テルマエ展 お風呂でつながる  
古代ローマと日本) ペア5組  
10名様

締め切り  
12/15(金)  
23:59

プレゼントのご応募は  
アンケートフォームから

応募はこちら▶



※厳選なる抽選のうえ、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。  
※ご応募に際してご記入いただいたお客様の個人情報は、当キャンペーンのプレゼント発送にのみ使用いたします。

表紙のワード/

「五感の翼」とは?



「芸術文化ゾーン」とは、iichiko総合文化センターと隣接する大分県立美術館とで構成された区域のことを指します。

両施設は翼をはばたかせるように連携して、美術と音楽等幅広い分野の芸術文化の融合と、新しい価値の創造などの活動を展開しています。こうした感性・創造性を磨く「芸術文化ゾーン」を皆様に知っていただきたい、そういう思いから「五感の翼」をコンセプトワードにしています。

芸術文化ゾーン

